



DOMAINE DE LA GRANGE DES PÈRES

Vin de Pays de l'Hérault 2021

ドメヌ・ド・ラ・グランジュ・デ・ペール ヴァン・ド・ペイ・ド・レロー

ストーリー

ラングドックのアニアーヌに位置するドメヌ。

ワイナリー名にある“グランジュ”とはフランス語で納屋や穀物倉庫を意味します。

ヴァイエ家はこの地に1963年に移り住み、ブドウと穀物の栽培を行ってきました。今も残るグランジュは、もともとベネディクト派の納屋として実際に使われていました。1988年にはローランとベルナル・ヴァイエの兄弟が畑を受け継ぐこととなります。

1992年にドメヌ・ド・ラ・グランジュ・デ・ペールを設立。

黒ブドウはシラー、カベルネ・ソーヴィニヨン、クノワーズ、ムールヴェードルを、白ブドウはグロマンサン、シャルドネ、ルーサンヌ、マルサンヌを13haに植樹。

当時、自社で栽培から瓶詰めまで行うことは、この地ではまだ珍しいことでした。

1992年の初リリースから人気を博すこととなり、その話題は一挙に広まりました。

その実力は、フランスの老舗大手ネゴシアンのパイヤーを「ドメヌ・ド・ラ・グランジュ・デ・ペールはラングドックを別の次元に押し上げた」と言わしめるほどのです。

ローランは2020年ヴィンテージを最後に、2021年4月に逝去し、その偉大な功績を知る多くの人々に衝撃を与えました。以降、2021年ヴィンテージからは兄のベルナルが醸造責任者となり、ドメヌの運営を引き継いでいます。ワイン造りにおいては、ヴィンテージにかかわらず一貫した醸造方法を守り続けており、収穫時期を年ごとの気候に応じて見極めていきます。目指しているのは、アルコール度数13.5～14%に達する理想的なブドウの成熟度です。

全てのブドウ畑はA.O.C. Coteaux du Languedocに位置しますが、カベルネ・ソーヴィニオンをブレンドしていることからI.G.P. Pays d'Héraultを名乗っています。

ビオディナミを実践していますが、認証を取得することはありません。

2021年ヴィンテージは、ベルナルが単独で醸造を手がけた最初の年として、愛好家の間で大きな注目を集めています。その仕上がりは期待を裏切らないもので、穏やかで涼しい気候は、ベルナルの技術と感性に見事に調和しています。ワインは香り高くエレガントで、繊細なタンニンが心地よい口当たりを生み出し、非常に完成度の高い一本に仕上がっています。生産者もまた、2021年ヴィンテージを現時点で最も完成されたワインと認めています。

テクニカルデータ

ブドウ品種：シラー 40%、ムールヴェードル 35%、クノワーズ、カベルネ・ソーヴィニヨン

2020年にはプティ・ヴェルドが植樹され、土着の古代品種であるウイヤード (Eillade) とともに、2022年ヴィンテージからブレンドに加わっています。

栽培：石灰質土壌。シラー、カベルネ・ソーヴィニヨンの畑は北、北東向き。ムールヴェードル、クノワーズは南向きの平地に植えられていて、成熟を助けるガレ・ルレ (丸石) が転がっている。ビオディナミ農法を実践。

収量：20～25hl/ha

醸造：トゥルトゥ、レ・ブルスに位置する9つの区画ごとに醸造。

除梗、破碎の後、5,000Lのステンレスタンクでアルコール発酵。

赤ワインはアルコール発酵が終わったら François frères, Saury 社製の

木樽に移し、24カ月の熟成をします。(新樽、1年樽、2年樽を1/3ずつ)

参考小売価格：オープン価格

GDP4HE--21

